



令和4年7月1日 現在
総世帯数 8,130世帯
総人口 17,406人
男 8,717人
女 8,692人

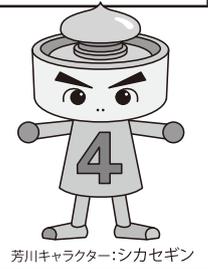
**芳川地区
地域づくりセンター**
☎58-2034

芳川出張所
☎58-2034

芳川公民館
☎58-2034

芳川福祉ひろば
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、
芳川出張所、芳川公民館への
連絡は同じ番号となります。



芳川キャラクター：シカセギン

よしかわスポーツひろば開催



テニス、マレットゴルフなど、76人が様々な種目を楽しみ、親睦を深めました。会場では、種目の説明に耳を傾け、チームで声を掛け合い、楽しむ姿が印象的でした。

今後、も体育協会と公民館では、誰もが

楽しく身体を動かせる機会の提供に努めていきます。

緑化推進協議会の総会と植栽

6月11日、芳川地区緑化推進協議会の総会が地域づくりセンターで、各町会から一人ずつ8人とスタッフ等11人が参加して開催されました。

総会で議案を可決した後、全員で、芳川体育館前の花壇に、約60株の夏秋用の花苗を植えました。

四ヶ堰に興味深々

芳川小学校4年生が四ヶ堰について、座学とフィールドワークで学びました。

密を避け、2クラスずつ座学をし、翌週には、四ヶ堰円筒分水まで歩き、サイフォンの原理を利用した分水の実際を確認しました。

座学では、昨年度作製した「わたしたちの芳川」を用いて、百瀬三七が、江戸から明治へめぐるしく変わる中、スマホも車もない時代に、時には五日がかりで伊那県



次回10月下旬に植え替えするまでの間、皆さんの目を楽しませてくれることでしょう。



の役場にでかけるなど、芳川に安定的に水を引くために、多くの困難を乗り越えて四ヶ堰を築いた歴史を学びました。

フィールドワークでは、円筒分水から耕作面積に比例して水が流れて行く様子に関心していましたが、もつと驚いたことは、大量のゴミが沢山流れ着いていたことです。「なんでこんなにゴミがあるの?」「きれいな川を守るために、ゴミのポイ捨てはだめだよ」と環境を守る大切さについても学ぶ機会になりました。



芳川小学校では、毎年4年生を対象に、芳川の名前の元になった四つの村の歴史を学ぶ機会を設け、郷土愛を育む機会としています。



出前講座、

シニア短大…



学びの場が 平常に

コロナ感染が終息傾向にあることから、講座も平常に戻りつつあります。

5月26日と6月8日には、野溝公民館で出前講座とふれあい健康教室、6月23日と30日には、多様性と人権をテーマに、芳川公民館でシニア短期大学が、7月14日には、村井町第一公民館でふれあい健康教室が開催されました。

町内公民館での出前講座には、芳川公民館は遠くてもちよつと、という方も含め、身近さから、30人を超える参加者がありました。柏澤公民館長の講話や百歳体操を楽しみ、保健師の熱中症になら

ない備えについて学びました。何より、外出機会が減る中、久しぶりに会っての旧交を温めることが出来て、参加者の笑みがあふれる機会となりました。

今後とも出前講座に積極的に出かれますので、公民館にお気軽にお声がけください。



いざっ！ 松本市街地へ

7月6日、12日、13日と計3日間、福祉ひろばと公民館共催でふれあいウォークを開催しました。今回のテーマは「松本城・中町蔵通りと源智の井戸・あがたの森周辺文化施設」と3本立てでした。



当日は、公共交通機関を利用し、各々松本駅に集合、3日間異なる行程で様々なスポットを巡りました。

参加者から「市街地にこんなところがあったんだ」など普段歩かない場所を歩くことで新たな発見をした人も。

旧市街地には、知られざる魅力がまだまだあります。たまには電車で街中へふらりと行くのもいいですね。

芳川の今昔物語

村田 正幸

第39話

旧芳川小学校とタキソジウム

明治44(1911)年11月25日、芳川尋常高等小学校が新築し、開校式が挙行された。昭和49(1974)年5月に現在地に移転するまで、改修・増築しながら使用されていた。旧体育館・中学校舎・南校舎と大正初期に植えられたタキソジウム(二列葉松)が見え、校舎の周辺には家が建ち始めている。

小学校の移転後には新体育館と東校舎が残されて、昭和51(1976)年9月12日に芳川公民館・出張所が移転、昭和56(1981)年には児童センター

や児童遊園が整備されて、他は売却となった。平成5(1993)年3月に公民館・出張所が移転し、跡地は売却された。



撮影:1970年頃



撮影:2022年5月

村井駅舎建築中 Vol.3



6月下旬、大きなボーリング重機が設置され、基礎工事が始まったと思われまます。楽しみです。

たちばなし

毎年恒例の「梅雨」今年はどこへいったのやら…

6月と言えば月の半分は雨というイメージが強いのですが、今年は6月半ば

くらいから暑い日が続きました。と言うより35度を超える猛暑日があり、所々で熱中症で倒れる人もいました。今年の水不足が予想されますが、そうなるにまず大変なのが農家の方々。作物には水は絶対不可欠です。トマトやナス、キュウリなど夏の野菜に色艶が悪いとか形が変などの影響が出ています。

次に懸念されるのが電力。日本の水力発電は全体の7.7〜8%程度ですが、今年も電力需給ひっ迫注意報が出たりしています。水不足では発電できない恐れが出てくるのではないのでしょうか？

2年半以上もコロナで我慢を強いられてきましたが、まだまだ油断はできないし、さらにウクライナ情勢など含めた物価上昇もあり各家庭にかかる負担も大きくなってきています。私にどうこうできる事ではありませんが、日本に、世界に未来はあるのでしょうか？と心配になってしまいます。